

人口減少や都市の縮退等に対応した 緑地計画技術



防災・メンテナンス基盤研究センター 緑化生態研究室

室長 栗原 正夫 研究官 荒金 恵太

(キーワード) 人口減少、都市の縮退、コンパクトシティ、緑地計画、緑の基本計画

1. はじめに

緑やオープンスペースは、身近な遊びや休息の場の提供、都市環境の改善など、安全で快適な都市生活に欠かせない機能を持つインフラであり、緑の基本計画に基づく公園緑地施策の推進により、これまでに一定の量的ストックが形成されてきた。

一方、我が国は2008年をピークに人口減少局面に入り、2050年には高齢化率は約4割に達すると推計されている。人口減少・少子高齢化の進行に伴い、都市のあり方について、これまでの拡大から均衡・縮小へと見直すことが求められている。また、都市機能の集約化とともに、集約化地域の周辺部にランダムに発生する未利用地への対応や管理の行き届かない緑地等への対応も必要とされている。

緑化生態研究室では、上記の問題意識のもと、「人口減少や都市の縮退等に対応した緑の基本計画技術に関する研究（研究期間：H25～H27）」を行った。その中で、「今後の緑の基本計画のあり方に関する研究会」を設置し、学識経験者に協力いただき、今後の緑の基本計画に求められる新たな役割や方向性について、計7回にわたり、議論を行ってきた。

2. これからの緑地計画に有効な手法・技術

平成27年度は、同研究会で示された学識者の着眼点や過年度に行った先進事例調査の結果をもとに、これからの緑地計画に有効な手法・技術について整理した。

これからの緑地計画は、公園や緑の量的充足を図るだけでなく、“緑地や自然資源の利用を通じて地域の魅力や持続可能性を如何に高めるか”といった新たな観点も加え、計画にも度づく幅広い視点からの公園緑地行政を展開していくことが必要とされる。

そのためには、地域の環境ポテンシャルを評価し、自然立地的な土地利用の方針を示すという環境保全・問題解決型のアプローチに加え、地域の資産をマネジメントする観点から緑地を活用する計画としての位置付ける策定手法・技術が有効と考えられる（下図）。

これからの緑地計画の基本的な考え方

緑地計画は、緑地の機能・効果の最大化によって環境・社会・経済面から都市の将来像に貢献する。

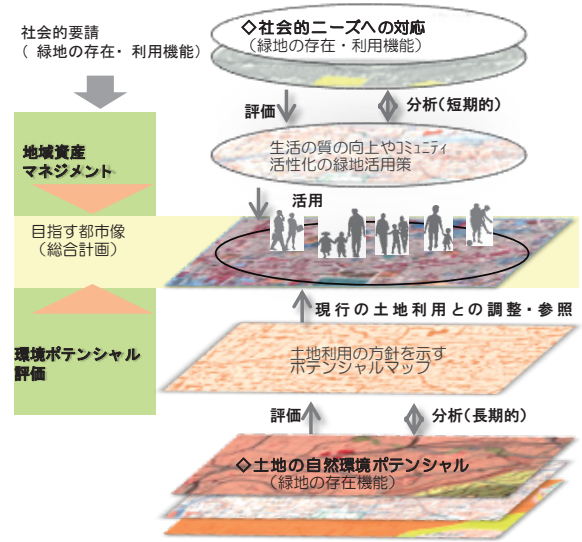


図 これからの緑地計画の基本的な考え方 (イメージ)

3. 今後の予定

本研究の成果は、「緑地計画に期待される役割及び策定手法に関する解説資料」としてとりまとめ、今後の都市と緑のあり方や、緑地計画のあり方についてのノウハウ・アイデアを示すことで、地方公共団体による緑の基本計画等緑地計画の策定・改訂の取り組みを支援していく。緑やオープンスペースが地域の魅力や持続可能性を高めるツールとなることにつながる活動・取組が一層活発に進められていくことを期待したい。